

牛久：学校周辺に見る自然

第33号 牛久二小

2012年10月7日発行

＜夏の終わりの植物たち ①果実と紅葉の始まり＞

牛久二小4年2組との「夏の終わりの生き物」観察。今回は9/14に観察した植物たちのようすを紹介（しょうかい）しましょう。今回のポイント（ポイント）は、秋に向けての果実（かじつ）のようす（ようす）と紅葉（こうよう）の始まりでした。



カキの実がしだいに黄色からオレンジ色に変わってきました。日に日においしそうに増えてきます。ただし、今年も放射能（えいきょう）の影響（いかり）を考えると、検査してないものは安心して食べることはできません。この怒（いかり）りをどこにぶつけたらよいのか…、残念（ざんねん）でなりません。果実（せいじゆく）の成熟（せいじゆく）が進むにしたがって、葉もだんだん黄色や赤みを帯びてくるようになります。

しだいに成熟が進むカキの実。葉の色も変わり始めた。



こちらは、**トウネズミモチ**の若い果実。まだ淡い緑色をしていますね。熟すと紫黒色になり、ヒヨドリなどの鳥が食べて種子（しゆし）を運び、野生化していることが結構あります。もとから生活している日本の植物たちへの影響（えいきょう）が心配され、「要注意外来生物（ようちゆういがいらいせいぶつ）」に指定されています。これも、古い葉が黄色に変化し始めていますね。

まだ若いトウネズミモチの果実と、黄変し始めた葉。



こちらにも葉の一部が赤くなり始め、その先にまだ緑色の若い果実がついていました。紅葉が美しいので「錦木（ニシキギ）」と名がついたようですが、学名には「翼（つばさ）のある」という意味の言葉がついていて、コルク質の翼が発達してくる枝の特徴をあらわしています。この翼の位置と葉の位置、芽の位置には規則性があります。観察してみましょう。

ニシキギの若い果実と、紅変し始めた葉、枝の翼。



ビオトープの**ムクノキ**にも、若い果実がついていました。これも熟すと黒くなり、鳥が食べて種子（じゆくす）を運びます。二小では、ヒヨドリがよく来て食べているようですね。人が食べても甘くておいしいのですが、放射能（ほうしゃのう）の関係で食べさせられないのが残念（ざんねん）です。

ムクノキの若い果実。鳥が食べて種子を運ぶ。



同じくビオトープの**ハナズオウ**。若い果実がついていましたが、これからマメ科の仲間と分かりますね。冬芽もまた変わっていておもしろいですから、観察してみましょう。ハート形のかわいい葉が、やはり黄色く変わり始めていました。果実は熟すと茶色になります。

マメ科のハナズオウの若い果実。ハート形の葉も特徴。



ビオトープでは、**ヨウシュヤマゴボウ**の果実も黒紫色に熟し始めていました。北アメリカ原産の多年草で帰化植物です。実がいかにもおいしそうですが、体全体に毒があり食べられません。また、漬物などで売られている「山ごぼう」はキク科のモリアザミやゴボウの根で、これとはまったく異なる植物です。特に種子の毒性は高いので、注意が必要です。熟した実を色水遊びで使う人もいますが、手をよく洗うなど、気をつけたいものです。

おいしそうだが、有毒で食べられないヨウシュヤマゴボウ。



紅く色づき始めた桜の葉（左）とススキの穂（右）。

桜の葉も色づき始めました。日に日に紅い葉、黄色い葉が増えていきます。今年はいへん残暑厳しい9月でしたが、しだいに秋が深まっていくのを葉の色や風、雲などから感じることができます。

9/30のお月見は、あいにくの台風の影響でさんざんでしたが、あの夜、1時前に布団に入ったら、ちょうど星が輝いているのが目に入り、空を見上げたら見事に光り輝く満月も見られました。風が強くて雲の流れも速かったですが、なんだか得をしたような気分でした。家族はみな寝静まっていますが、片づけてしまった**ススキ**と、お団子、秋の味覚を出してながめました。



最後に、熟して開き種子の見える**ツルレイシ**の果実と、**ヒマワリ**です。ツルレイシの赤い部分は甘くて、アリなどが集まります。

【理科支援員 宮内】

熟して開き種子が見えるツルレイシの果実（左）と、重たそうなヒマワリの果実の集まり（右）。